



令和6年度 学校教育活動(児童・保護者・教職員)アンケート集計結果のお知らせ

向春の候、皆様には益々ご健勝でお過ごしのことと存じます。

さて、12月に実施した教育活動アンケート(児童・保護者・教職員)の集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。今年度の学校評価を基に、学校運営協議会とも共有し、次年度の学校運営に生かしていきます。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

各アンケート集計結果の分析

各項目の分析については、「そう思う・だいたいそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・そう思わない」の5つの観点のうち「そう思う」と「だいたい〜」の合計値の割合(%)として記載し分析しました。今年度のアンケートでは、回答者の割合が高いものではありませんでした。また、内訳をみると、各項目で「どちらでもない」について回答している割合が多くありました。今後は、学校からの情報発信をさらに充実したものとするとともに、保護者、地域の方と一緒に情報発信活動を考え、学校教育活動に関心をもっていただけるよう検討していきます。

1 小中一貫教育について

	児童	保護者	教職員
①我孫子中学校区では小中一貫教育の充実に努めている。	/	54	91

小中一貫というと、「我孫子中学校に体験に行く日」ととらえられがちですが、我孫子の小中一貫の教育は、中学校区で「15歳の目指す子ども像」を共有し、子どもたちを地域で育てていくことを目的としています。そこで、我孫子中学校区では、「安全教育」に焦点をあて実施してきました。各学年のカリキュラムに「安全教育」を位置づけ、地域の方々の協力を得ながら実践してまいりました。今年度、カリキュラムに位置付けて、計画的に授業を実施できたことは成果として挙げられます。しかし、それが子どもたちや保護者に十分に伝わったとは言えませんでした。地域で育てる子どもたちのために、学校からの情報発信をより伝わりやすいものとして行う必要があると感じました。小学校6年間の教育の積み重ねが小中一貫教育として実践されていることについて引き続き周知していきます。

2 学校生活全般について

※「そう思う・だいたいそう思う」の合計値。どちらでもないは含まない。

	児童	保護者	教職員
①体験活動など、地域と連携した教育活動を行っている。	/	72	94
②子どもは、楽しく学校へ通っている。	87	90	100
③子どもは、思いやりの気持ちが育っている。	95	90	85
④子どもは、学校、家庭、地域で進んで挨拶をしている。	89	73	30
⑤子どもは、基礎学力を身に付けている。	87	81	76
⑥子どもは、進んで体を鍛え、体力が向上している。	75	70	67
⑦子どもは、安全教育に取り組み、生活安全、交通安全、防犯、防災の意識を身に付けている。	88	87	76
⑧子どもは、施設や設備の整った環境の中で学校生活を送っている。	88	71	66
⑨学校は、子どもの学習面や生活面について相談できる機会を設けている。	83	72	90
⑩学校は、熱心に授業に取り組み、きめ細かに指導に当たっている。	75	75	97
⑪学校は、教育活動や子どもの様子などの情報発信を適切に行っている。	74	76	91

⑫教職員は、子ども一人ひとりを大切に指導している。	8 6	7 3	9 7
⑬子どもは、インターネットやタブレット等について、約束を守っている。	8 7	7 5	5 7
⑭子どもは、自分や友だちの心や体を大切にして学校生活を送っている。	9 2	9 2	9 4

～以下アンケート項目から抜粋～

②子どもは、楽しく学校へ通っている。

教職員は、子どもたちの困っている事について支援したり、自分たちで考えさせるようにしたりなど、様々に対応し子どもたちが楽しく学校へ通っていけるように日々考えています。また、「心の天気」による心の健康観察では、タブレットにて今日の心の状態を把握しています。一方、子どもたちの困り感は千差万別で日ごとに解消したり、発生したりしています。今まで以上に日々子どもたちの困り感や悩み、それぞれの課題を良く把握し、子どもたちが楽しく学校へ通えるように子どもたちを見ていきます。

④子どもは、学校、家庭、地域で進んで挨拶をしている。

児童・保護者・教職員の間で、大きく認識のずれがあります。特に、教職員の評価した割合が低く表れています。挨拶をすることは礼儀という事とともに、人に対して心を開くことだということも伝えていきます。また、教職員一同が挨拶のモデルとなるように引き続き意識して取り組んでいきます。学校でのあいさつを地域や家庭につなげていけるよう、地域や家庭と協力しながら、どんな場面でも場に応じた挨拶ができるよう粘り強く支援していきます。

⑨学校は、子どもの学習面や生活面について相談できる機会を設けている。

年度当初に全校朝礼で、「心の相談室」について話をしました。教育相談については、学校として力を入れていることですので、「心の相談窓口」のチラシを作り、再度、全校朝礼や学年だよりで周知したところです。子どもをとりまく悩みや困り事は様々ですので、今後も相談できる機会を確保し、子どもたちに実感できるようにしていきたいと思えます。保護者の皆様も、何かありましたらご相談ください。

⑬子どもは、インターネットやタブレット等について、約束を守っている。

タブレットを使った学習が子どもたちになじみ始め、高学年では、当たり前のように使用するようになりました。一方、情報端末が身近になり、利便性が向上した半面、様々なトラブルも増えてきました。子どもたちを取り巻く状況を考えると、正しい情報モラルを身に付けることが重要であり、学校と家庭の双方で効果的な使い方やルールについて考えていく必要があると感じています。

⑭子どもは、自分や友だちの心や体を大切にして学校生活を送っている。

高野山小学校では、いじめ防止について人権教育を軸に実践していきました。コロナ禍では、様々な体験活動が制限されてきました。友だち同士の適切な心理的、身体的な距離感や、相手の気持ちを考えることなどを授業や体験活動を通して意識的に実施し、いじめの未然防止について努めてきました。自分以外の人の考えを認めながら、目標を達成したり、学校生活を送ったりするにはどうしていけばよいかなど、全ての子どもが自分や友だちの心や体を大切にしていけるよう、今後も取り組んでいきます。

【終わりに】

今年度は、様々な体験活動が行われるようになりました。児童の体験活動が増え、遊び、学習面、生活面で児童同士の関りが増えました。その半面、児童同士で折り合いをつけたり、解決したりする場面であまりかたないことも多くありました。保護者の皆様からは、多くの相談をいただく中で、保護者の方とお会いして、直接コミュニケーションが取る重要性を改めて感じる1年でした。また、学校に協力していただく皆様のご協力や、ともに子どものために考えていけることは、我々教職員にとってとてもありがたいことでした。今年度も、保護者の皆様には、たくさんのご理解とご協力をいただいたことに感謝申し上げます。